

背景

- 存続意義への問題提起
- 融資活動が思うように拡大しない。先行きへの不透明感
- 公的部門からの資金需要の停滞（借入れシーリング、高い流動性）
- 民間部門への融資で競争（アンデス開発公社、中米経済統合銀行）
- あるいは総裁がかわったところでの人心一新なのか

開発金融パラダイムからの組織変遷

| | | |
|----------------|---|--|
| 1994年まで | 公的部門への融資が中心。とりわけ伝統的な社会経済インフラへの融資。 | 業務部門と審査部門の並立。 |
| 1994年から2007年まで | 公的部門への融資が中心であるも、民間への融資（ノンソブリン）も実施。伝統的なインフラへの融資から政策ベース、プログラムベースの融資へのシフト。 | 業務部門と審査部門をなかにとりこんだ（Self Contained）地域局。 審査部門のテクニカル部門への機能変更 |
| 2007年から???? | 公的部門からの資金需要の低下。民間への融資（ノンソブリン）の拡大への期待。 | カントリーとセクターとのマトリックス |

2007 組織変更のハイライト

- 地域局制度の廃止、カントリー部門とセクター部門の設立とマトリックスモデルの導入
- 副総裁制度の拡大、上級副総裁に加えて4つ副総裁ポストの設立、権限委譲と Accountability の明確化（同時に中間管理ポストの削減）
- 民間セクター関連部局のシナジーの向上
- 経営企画部門（Strategic Core）の強化

マトリックスダイナミクス

| | | |
|-------------------------|---------------------|--|
| カントリーストラテジー およびプログラム | 国別担当局（現地事務所 も含む） | 国別担当局が主導してセ クター局からのテクニカ ルインプットを考慮して 作成する。これが予算の ベースとなる。 |
| プロジェクト 準備、審 査、実施 | セクター局 | セクタースペシャリスト がヘッドとなるプロジェ クトチームが、案件準 備、審査、実施を一貫し て担当する。ただし、実 施段階で、Fiduciary Supervision は国別担当局 が担当する。 |

インパクト

- 案件準備 審査と案件実施の分離がなくなる。
- 結果への Accountability の向上
- 承諾至上のカルチャーからの脱却
- 現地事務所の組織、機能の変更
- 現地への権限委譲
- 現地採用と本部採用の消滅
- 事務所スタッフの強化
- 部内手続き及び意思決定体制の変更
- 部内手続きの簡素化と権限委譲

リスク

企業風土、人事（HRD）